

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

特別号

Special Number

北半球から南半球へ
新たな地球一周の船旅

グローバル ヴォヤージュ 特別号 2025年12月25日発行

編集発行人: 井上 直

発行所: 株式会社ジャパングレイス 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13-2F

TEL: 03-5287-3081

南も北も、地球を丸々見る、
価値あるクルーズです



ジャパングレイス事務局長
(航海士元船長)

挟間 俊一

世界一周クルーズは、これまで西回りまたは東回りの航海が一般的でした。しかし、今回の Voyage 123 は航路変更により、地球の東西南北を巡る壮大な航海となります。アジア各港に寄港した後、南インド洋を横断してアフリカ大陸最南西端の喜望峯まで南下。その後、一気に北上しアイスランドに到達します。さらに北大西洋を下し、ニューヨークを経由した後、世界的に有名なパナマ運河を通過。中南米の国々に寄港後、バンクーバー、さらにはアラスカ大氷河の遊覧を経由して日本に戻ります。

このような壮大な航海では、世界の海流やそれがもたらす天候、気温、さらには予想外の動物たちの生態系に触れる機会があり、多くの驚きと感動を経験していただけるでしょう。今回の航路は、地球一周4万キロをはるかに超え、私の推測では6万キロ近くに及ぶと思います。

移動しながら、北半球と南半球を一度に巡る航海を経験することは、船乗りにとっても非常に稀なことです。ご乗船の皆さまには、旅の終わりに今クルーズの総航海距離を記載した「地球一周証明書」をお一人ずつお渡しいたします。およそ100日前に出帆した港へ戻る際には、人類の歴史の中でも限られた人しか経験できない、スケールの大きな大航海を成し遂げた喜びと誇りを感じていただけることでしょう。ぜひ、この素晴らしい船旅を共に楽しみましょう。本船で皆さまをお待ちしております。

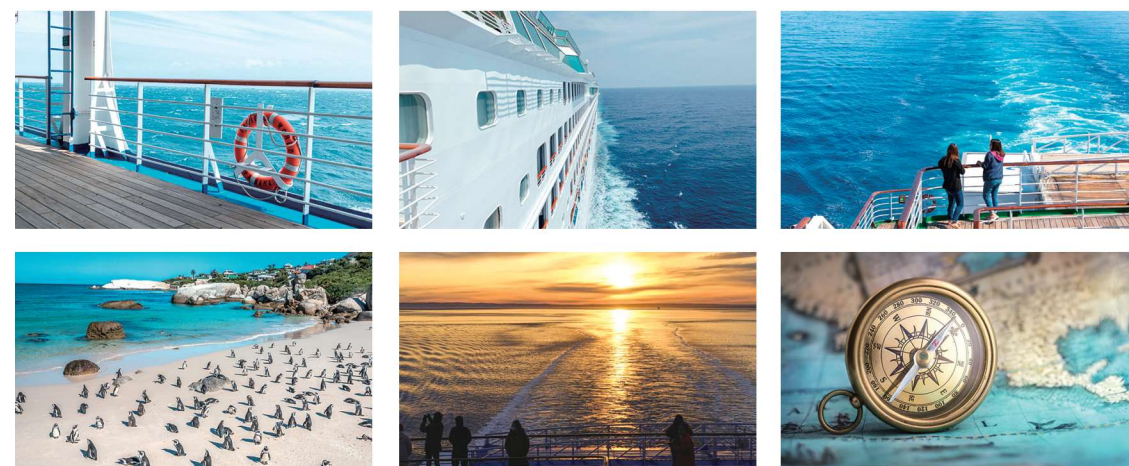


PHOTO: PEACEBOAT, Chiga Kenji, Lars Korvald (Storywell), Nakasuji Kota, Yoshida Taisuke, Yuruki Shiho, Social Good Photography, Inc., Adobe Stock, Shutterstock.com

〔発行〕(株)ジャパングレイス



多様性に富む新寄港地で味わう 未体験の感動

Voyage123における新たな航路では新寄港地が加まりました。
ポートエリザベスの野生動物との出会いや陽光降り注ぐカナリア諸島、アイスランドまで北上した後は
南米のカリブ海の楽園ジャマイカで音楽と陽気な文化に触れるなど多彩な体験が待っています。
インド洋から大西洋を抜け、
ヨーロッパや中南米を訪れる地球をぐるりと回る航海が、新鮮な感動をお届けします。



Cape Town

自然と都市が融合した魅力に富んだケープタウンの全景。

「世界自然遺産」 ケープ植物区 保護地域群



ケープ半島の自然を象徴する世界遺産。この地方に広がる独特の植生や、マラカイトサンバードなど希少な鳥類も見ることができる。



4: 歴史の重みと優美さを感じられる「市庁舎」。5: 活気あふれる港町「V&Aウォーターフロント」でショッピングとグルメを満喫。6: ワインのメッカとして知られる南アフリカはワイナリーも観光スポットの一つ。



ショッピングとグルメを楽しむなら
ヴィクトリア・ワーフ・ショッピングセン
ターへ。地元の新鮮なシーフードや国
際色豊かな料理を堪能できるだけで
なく、歴史とアートが交差する博物
館も多くあります。また地元のワイ
ン文化に触れるなら、近郊のステレ
ンボッシュやフランシスホークのワイナ
リー巡りを組み込むと、南アフリカの
新たな魅力を発見できます。
歴史に興味がある方は、アパルトヘ
イト博物館を訪れることで、この街が
歩んできた道のりに触れることがで
きます。自由
と平等を求め
た南アフリカ
の歴史が、映
像や展示物
を通してリア
ルに伝わって
きます。



ボルダーズ・ビーチで出会える愛らしいペンギンたち。



1: 喜望峰のサインボードはこの地に到達した記念撮影にぴったりの名所。2: 海と空が織りなす絶景を望める「灯台」。3: 遥かなる水平線とともに広がる喜望峰の雄大な風景。



アフリカ最南端で出会う、壮大な
景色と多様な文化「ケープタウン」



南アフリカ共和国

ケープタウンは、歴史的な街並みと
雄大な自然が絶妙に融合した都市で
す。街の象徴である「テーブルマウン
テン」を満喫するには、ロープウェイで山
頂に向かい、雄大なパノラマを楽しみ
ながら、大西洋や街並みを一望しま
しょう。隣接するライオンズヘッドで
は、山をハイキングする観光コースも
あります。夕暮れどきは特に美しい
景色を堪能できます。

自然愛好家であれば必見なのが
「ケープ植物区保護地域群」。ユネスコ
世界遺産に登録されており、この地域
で見られない多彩な植物が生息し
ています。ここから南下すると、アフリ
カ大陸の最南西端「喜望峰」が現れま
す。切り立つ崖と広がる海景は、訪れる
人々を圧倒します。途中の道で、ボル
ダーズ・ビーチのペンギンコロニーに立ち
寄り、可愛らしい野生のケープペンギン
に出会う感動も味わうことができます。

市内観光では中心部にある市庁舎
がひととき目を引きますが、周辺に
も荘厳な建築や広場があり、街の歴
史と文化を感じるには最適なスポッ
トです。その隣接地にはネルソンマン
デラが解放後に演説を行った歴史的
な広場もあります。ここから少し歩
くと、カラフルな建物が並ぶボカー
プ地区が広がり、異国情緒あふれる風
景も楽しめます。

サファリと美しい海岸線をはじめとする 魅惑の港町「ポートエリザベス」

「南アフリカのフレンドリーシティ」として知られるポートエリザベス。雄大なサファリから、文化や歴史に触れる観光地、海沿いのリゾート感あふれるスポットまで楽しみが満載です。



南アフリカ共和国



ポートエリザベスで多くの観光客が楽しみにしているのは広大な保護区でのサファリ体験。象やキリン、ライオンなどアフリカ特有の動物たちが生息するエリアを探索するワクワク感は格別です。保護区では、四輪駆動車でのドライブサファリが人気。動物の識別、地元の歴史、植生など幅広い知識をもつガイドによる案内で巡ることが出来ます。

街に戻ったら、歴史的な見どころが集まる「ドンキン保護区」を散策するのはいかがでしょう。街のシンボルである灯台や歴史的なモニュメントが並ぶこの丘からは、ネルソン・マンデラ湾を一望に収められます。

またポートエリザベスは40キロにもおよぶ美しいビーチが広がるリゾート地でもあり、海辺の人気エリアであるボードウォークは、カフェやレストランに入ったりお土産を探したりするのに絶好のスポット。水族館やエンターテインメント施設も充実しており、幅広い世代が満足できるアクティビティが揃っています。



1: 街のシンボルであり歴史的な見どころが集まる「ドンキン保護区」。2: 洗練されたレジャー&リゾート施設の「ボードウォーク」。



様々な野生動物を見ることができるサファリ体験は人気の高いアクティビティ。



Port Elizabeth

手つかずの自然が残されたアフリカの大地で観察できる迫力ある象の姿。



Vancouver 海と緑に囲まれた風光明媚な都市景観。



3: ノスタルジックな雰囲気のカスタウン地区に立つ世界唯一の蒸気時計。4: 無料で公開されているリン・キャニオン公園は緑豊かな森や滝など自然を満喫しながらハイキングがお勧め。5: グラウス・マウンテンの山頂は大パノラマが広がる絶景スポット。6: 吊り橋を渡りながら森林浴を楽しめるリン・キャニオン公園。

都会と自然が溶け合う 世界屈指の美しい街「バンクーバー」

高層ビルと深い森とが息つくバンクーバー。街の賑わいから自然の静けさへ。港町ならではの多様な表情をもつこの都市では、海沿いの公園や山の絶景、歴史ある街並みを巡ることで、都会と自然が無理なく交差する旅を堪能できます。



カナダ



バンクーバーは「世界で最も住みやすい都市」のひとつとして知られ、その魅力は都会と自然が隣り合わせであることです。市民の憩いの場であるス

タンレーパークはダウンタウンに隣接しながら、手つかずの森林と海岸線が広がる都市型公園。海と街と森が一望できるシーウォールを歩けば、都市の喧騒を忘れて心が解き放たれます。歴史と文化の香りが残るカスタウンはレング造りの建物が並び、名物の蒸気時計が蒸気の音とともに時を告げます。カフェやギャラリーが軒を連ね、街歩きも楽しめます。さらに自然に癒されるには、30分ほど足を延ばしてキャピラノブリッジへ。谷の上70メートルに架かる吊り橋からは、熱帯雨林のキャノピーと清流が眼下に広がり、スリルと自然の静寂を同時に味わえます。さらに地元の人にも愛される自然の宝庫がリン・キャニオン公園。木々が茂り、シダ植物が群生する森の中のハイキングを楽しめ、落ち着いた雰囲気が魅力です。

歴史と自然、グルメが彩る島の旅

「テネリフェ島」



スペイン

スペイン領カナリア諸島のテネリフェ島は、スペインとアフリカ文化が融合するユニークな魅力を持つ島です。世界遺産の街並みや、壮大な火山風景、地元のグルメが訪れる人々を魅了します。



新鮮な焼きイカにサラダを添えたスペイン料理。

テネリフェ島は大西洋に浮かぶカナリア諸島最大の島。スペイン植民地時代の影響を色濃く残す歴史ある街並み、自然の絶景など多彩な魅力をもっています。まずは世界遺産のサン・クリストバル・デ・ラ・ラゲーナ旧市街の石畳の通りを歩きながら、カラフルな建物や雑貨店を巡り、島の歴史に触れてみましょう。

自然を堪能するならティデ国立公園を訪れるのがお勧め。スペイン最高峰の火山の荒々しい景色が広がるこの公園にはロープウェイで山頂近くまでアクセスでき、島全体を見渡すパノラマ景色を体験できます。トレッキングも人気で、大自然のスケール感を実感できます。グルメを楽しむなら、カナリア諸島独自の味覚に注目。新鮮な魚介を使った料理やラム酒、さらにはフルーティなカナリアワインといった地元の味を楽しんでください。



1: 大西洋に浮かぶ楽園、遥かにティデ山を望み海岸線が広がるテネリフェ島。2: 歴史と文化の息づかいを感じるラ・ラゲーナの街路。



カリブの楽園で過ごす極上のひととき

「モンテゴベイ」



ジャマイカ

モンテゴベイは、美しいビーチとカリブの豊かな文化が融合した魅力的なリゾート地。美しいビーチや歴史探訪、ユニークなアクティビティを通して、ジャマイカの真髄に触れましょう。



工芸品として販売されている手作りの木彫りラスタマンのお面。



7



8

6: 海水浴、日光浴、シュノーケリングなどビーチリゾートの楽しみ方は色々。7: 青い海と白い砂浜が広がる絶景のリゾート。8: 竹筏に揺られて楽しむリパークルーズ。

インド洋に浮かぶ美しい島国の首都

「ポートルイス」



モーリシャス

ポートルイスは、インド洋の楽園モーリシャスの玄関口であり首都。政治、経済の中心であると同時に、美しい自然と文化的な魅力が詰まった街です。



ヒンドゥー教の聖地でもある「グラン・バッサン」。



3

ポートルイスの魅力は、街の表情の豊かさにあります。多民族、多文化が融合し、街を歩けばヒンドゥー寺院の祈りの煙、モスクのミナレット、そしてヨーロッパ調の建物が調和しています。政府庁舎やセントルイス大聖堂などからは、植民地時代の面影が見てとれるでしょう。アブラヴァシガートは、19世紀に契約移民労働者の受け入れ施設であった場所で、世界遺産に登録されています。街歩きをしながら美しい海と山の景色を同時に堪能することができますのも魅力。お土産を探すなら活気あふれる中央市場やル・グダン・ウォーターフロントへ。少し足をのびして南西部にあるシャマレルへ向かえば、自然が生んだ奇跡である七色の大地や、迫力満点のシャマレル滝など、圧倒的な自然と出会えます。



4



5

3: シャマレル鉱山の鉱物が化学反応をおこして生まれた七色の大地。4: 空から望むポートルイス。海と山に囲まれ多文化が息づく街並み。5: モーリシャスの一大産業、サトウキビから砂糖をつくる工程などが分かる「砂糖博物館ラヴァンチュール・ド・シュクル」。

北欧の玄関口、中世の香り残る都

「ベルゲン」



ノルウェー

ノルウェー第二の都市でありながら、自然に包まれた港町ベルゲン。周囲を七つの山に囲まれ、世界遺産のブリッゲン地区や、新鮮な魚介が並ぶ魚市場も見どころ。フィヨルド観光の拠点として世界中から観光客が訪れる、美しい北欧の玄関口です。



タラ料理など新鮮な魚介類が豊富。

山と海に囲まれた風光明媚な港町ベルゲンは、ノルウェー第二の都市でありながら、のんびりとした空気に満ちた穏やかな街です。中世の面影を残すブリッゲン地区は世界遺産に登録されており、色とりどりの木造建築が立ち並ぶ姿は、絵画のような美しさです。かつてハンザ同盟の交易拠点として栄えたこの地区では、今も職人の工房やギャラリーが軒を連ね、タイムスリップしたような感覚で散策を楽しめます。

街の中心部からはフロイエン山へと続くケーブルカーもあり、山頂からは赤い屋根が連なる美しい旧市街と港の風景が広がります。活気ある魚市場では、新鮮なサーモンやシーフードが並び、ノルウェーの味覚でお腹を満たせます。ベルゲンはまた、フィヨルド観光の玄関口でもあり、船や鉄道で手つかずの大自然へアクセス可能です。



9



10

9: 三角屋根のかわいい木造建築が並ぶブリッゲン地区。世界遺産にも登録されている名所。10: 少し街を離れたところの風景が広がる。

世界最大級の氷河に息を呑み圧倒される

アラスカの氷河は世界で最も美しいといわれています。高さ100メートルを超えるような氷の壁が目前に迫り、そのスケールに圧倒されることでしょう。大氷河が轟音とともに崩れ落ちる瞬間を目撃できるのはクルーズならではの特権です。

航路変更に伴い、クルーズのハイライトのひとつとなった、アラスカの「ハーバード氷河」。長さ122キロ、高さ90メートル、幅は9・6キロに及びます。ハーバード氷河はクルーズ船でないと見ることができない世界最大級の氷河です。大きな特徴としては氷河の流れるスピードが速いこと。数千年かけて流れる南極の氷河と違い、約400年の時間で流れます。つまり非常に活発であるため、氷河の崩落も多くなるのです。しかし、予兆は感じにくいいため、大きな氷河が崩れる瞬間を目の前で見ることができたらとても幸運です。

プリンスウィリアム湾の「カレッジ・フィヨルド」では米国の大学名が付けられたいくつもの氷河を見ることができ、最深部にはハーバード氷河があります。氷河の崩落はこちらのほうが見られる確率が高いと専門家は言います。川で言えば、広い大河から狭いところに入ると急流になりますが、それと同じような地形のため氷河が集まりどんどん押し出されているのがその理由です。

氷河を前にしたとき、見るだけではなく「もうひとつの楽しみ」と言われるものがあります。それは、耳を澄ませていると氷河の後ろの方で氷塊が氷河の水のなかに落ちていく音。その音は『ゴロゴロ』と聞こえ、雷の音に似ているため『アラスカンサンダー』と呼ばれています。目と耳と肌で感じるアラスカの氷河は旅のクライマックスにふさわしい、大自然のドラマとなって心に刻まれるでしょう。



「ハーバード氷河」

Harvard Glacier

カレッジ・フィヨルドの最深部にある氷河。長さ61キロ、幅2キロ、高さ122メートルある巨大な氷の壁。氷河に木の年輪のような黒い筋を見ることができるが、これはハーバード氷河の上流で何本もの氷河が合流していることの証で「モレーン」という。



「ハーバード氷河」

Hubbard Glacier

アラスカ州東部とカナダのユーコン州の一部に位置する氷河。アメリカの投資家、実業家としてナショナルジオグラフィック協会の創設者ガーディナー・ハーバードにちなんで名付けられている。太古の昔、降り積もった雪が氷河となった時間の長さや自然の営みの壮大さを実感できる。

アラスカに生きる海洋生物

クルーズの途中、船上から海を眺めていると多くの海洋生物との出会いが期待できる。大自然のなかで生きる、悠然とした姿、迫りに満ちた姿、あるいは愛嬌のある姿、どれもが一生思い出に残るひとときになるだろう。



クジラ

Whale

それぞれ独特の模様を持つザトウクジラ。しぶきを上げながら堂々と海原をゆく姿は生命力に満ちている。運が良ければ「ブリーチ」という体をよじらせながら水上へ飛び出すジャンプを目撃できる。



シャチ

Orca

シャチは知能が高く、長命である。家族の絆が強く、行動をともにするので群れで発見するケースが多い。ヒレの形に特徴があり、少し曲がっているのがメスでピンと立っているのがオスである。



ラッコ

Sea Otter

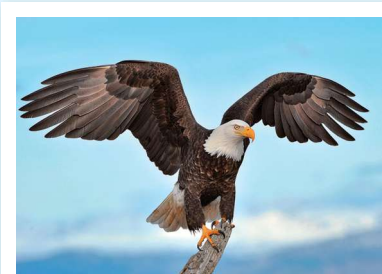
アラスカの海岸地帯で見ることができる。仰向けになって水に浮いていたり貝を岩に打ち付けて食べている姿が目撃されている。厚い下毛をもっているため水中でも体温を保つことができる。



アザラシ

Seal

海面下450メートルまで潜り30分間も息が続くことで、サーモン、タラ、タコやイカなどのご馳走を食べて暮らしている。夏季には流水のうえでのんびり休んでいる姿を見ることが珍しくない。



ハクトウワシ

Bald Eagle

アメリカの国鳥であるハクトウワシはアラスカでたくさん見ることができる。白い頭が特徴で、よく目立つ。フィヨルド沿岸の上空を旋回し、ダイブして魚を獲り岸边で食べる姿は迫力満点だ。



アラスカのグルメ Alaskan Gourmet



スモークサーモンも定番のひとつ。お土産としても人気。



驚くほど肉厚なおヒョウのステーキ。

おヒョウはクセがなくフライにしても美味しい。

100年の歴史を誇る世界最北の地ビール。

アラスカのお土産 Alaskan Souvenirs

アラスカの名産であるベリーのジャムもおすすめ。



白樺の蜜からつくる「バーチシロップ」。



1: 山と海に抱かれた静寂の港町ウィットティア。2: 大自然を背景にしたアラスカ最大の都市アンカレッジ。3: 先住民文化と自然の物語に出会えるアンカレッジミュージアム。

観光地化されていない港町

[ウィットティア] Whittier

アラスカ南岸の静かな湾に抱かれた小さな港町、ウィットティア。軍港として開かれ、現在でも当時建てられた建物の一つにほぼ全ての住民が暮らしつづけているアラスカで最も“特異”な港町です。ここからはアラスカ州最大の都市アンカレッジへのアクセスも便利で、豊かな自然と洗練された街並みがもうひとつのアラスカの顔を見せてくれます。

アラスカ州南部、プリンスウィリアム湾に抱かれるように佇む小さな港町、ウィットティア。四方を険しい山々と氷河に囲まれたこの地は、船でしかアクセスできなかった歴史をもち、今もどこか秘境のような雰囲気があります。港はコンパクトながらも自然が身近で、降り立った瞬間からアラスカらしい空気を感ぜられる場所。喧騒とは無縁の穏やかな時間が流れています。夏になると氷河クルーズや釣りを目的に訪れる人々に親しまれています。

迎バスや観光付きのオプションツアーを用意する予定です。アンカレッジは入り江と山に囲まれた街で、若盤の目のように整備され、洗練された都市機能と雄大な自然が見事に調和し快適に散策を楽しめます。ショッピングセンターや地元のレストランも充実しています。散策の途中に立ち寄りたいのは「アンカレッジミュージアム」。先住民文化やアラスカの自然科学に触れられる人気施設です。また中心部から車で1時間ほどの野生動物保護区にある「アラスカワイルドライフ・コンサベーションセンター」ではムースやバイソンなどが自然のなかで暮らす姿を見ることが出来ます。

オプションツアーで行く

[カレッジ・フィヨルド] College Fjord

ウィットティア発着の約4時間半のクルーズは壮大な氷河群が次々と現れるツアーです。大自然の荘厳な美しさや迫りに圧倒されつつ、ときおりラッコやアザラシ、海鳥などの野生動物との出会いもあります。揺れが少ない快適さも魅力です。



ウィットティアから行く氷河群遊覧。ハーバード氷河を含む、カレッジ・フィヨルドの絶景を巡る。



高橋 和夫さん
TAKAHASHI Kazuo

(国際政治学者、放送大学名誉教授)

世界情勢をわかりやすい言葉で話してくれる国際政治学者で、解説者として数多くのテレビ番組に出演。また世界の複雑な問題を鋭く、かつ分かりやすく解説してくれる講座は、毎クルーズ人気が高い。著書に『モデルナとファイザー、またはバイオンテック』(GUEST)、『なぜガザは戦場となるのか』(ワニブックス)、『パレスチナ問題の展開』(左右社)、『アラブとイスラエル』(講談社新書)『イランとアメリカ、そしてイスラエル』(朝日新聞社、近刊予定)など。

高橋和夫の中東・イスラム・国際情報

<https://news.yahoo.co.jp/expert/authors/takahashikazuo>

X (旧ツイッター)

<https://twitter.com/kazuotakahashi>

YouTube チャンネル「高橋和夫&小沢知裕ルーム」

<https://www.youtube.com/@GIESTInstitute>

すごいぞ世界一周

数多くのテレビやラジオ番組に出演している高橋和夫さんには、これまでも水先案内人として、何度もご乗船いただいています。帰国したばかりのVoyage121では、なんと全区間にご乗船いただきました。その世界一周の体験を踏まえて、ピースボートならではの航海の魅力について御寄稿いただきました。

世界一周達成だ。何だろう。この気持ちの高ぶりは、世界一周といっても、自分で何をしたわけではない。船に乗っていただけだ。そして船の方が勝手に地球を回ったのだが。

これまで何度も、講師として船には招かれた経験はあったが、仕事の都合上、世界一周は、できなかった。しかし、今回は思い切って、しがらみを断って、Voyage121クルーズの全区間に乗船した。インド洋と大西洋での洋上の区間が長かった。

洋上の日程が長いと良いこともある。それだけ海を見て、空を見て、波を見つめて、雲と話し、星と月を眺め

る時間があるからだ。こちらが見つめていると、月や星が、見てくれているのではと考えたりする。空模様恵まれて日の出や日没が見えると、朝焼けや夕焼けの光が心の中にまで射(さ)し込んできそうだ。そして、そこに眠っていた子どもの頃の記憶を照らし出してよみがえらせてくれる。日本の都会で生活している私には、こうした非日常が日常の船生活は、それだけで格別だ。

航海中の船内では、講座に行つて、じっくりと話を聞いて勉強するのもよし、その振りをしながら居眠りするのもしよい。「船を漕(こぐ)」という



表現を思い出す瞬間だ。だが実は、船を漕いでいては、もったいない講座が詰まっていた。世界各地から訪問地の専門家が招かれていた。英語や中国語の講演でも、それが通訳たちの頑張りで日本語で聞ける。またAI翻訳も導入されている。それに、さまざまな舞踊団やバンドが乗船しており、ダンスや音楽が船内に満ちていた。

洋上区間は、社交ダンス、水彩画、ヨガ、英語、スペイン語のレッスン、楽器の練習など、趣味を深める時間でもある。ダンスパーティーからファッションショーまで、運動会から夏祭りまであつて、飽きさせない日々の連続だ。しかも、参加者が着飾って参加するファッションショーに反映されているよ

うに、乗船客が参加する。船上では皆が主役だ。

主役といえば、参加者が自ら企画するイベントも盛りだくさんだ。会場の予約が難しいほどだ。お客さんの熱心さに船は熱くなっていた。もちろん何もしないという至高の娯楽もある。デッキでジャグジーに入つてボートするといふひとときわ贅沢な時間の使い方もできる。ピースボート最高だ。

私の場合は、ちょうどインド洋が古代世界の交易に果たした役割を再評価する分厚い英語の歴史書を読んでいた。最近の英語圏でのベストセラーだ。インド洋で読もうと持ち込んだ。本で新たな知識を学びなが



ら、その現場を航海したわけだ。本の中の知識と現実の風景が頭の中で融合する体験だった。もちろん寄港地にも興奮させられた。いちばんの成果は、ニューヨーク訪問だった。船は10月の中旬に、この都市に着岸した。ちょうど市長選挙のキャンペーンのホームストレッチだった。最有力候補はゾーラン・ママタニというニューヨーク州議会の議員だった。その選挙区を訪問した。ケバブを焼く煙が漂っていた。髪を隠したイスラム教徒の女性が歩いていった。そこで露天商の話の聞きながら、選挙地盤の雰囲気浸った。なるほど移民の多い庶民の生活する地域だった。そして11月4日の投票の結果を待った。予想通りに、この移民の多い地域を地盤とするママタニが当選した。勝利演説では、ニューヨークは移民の街だ。今日から移民が市長として指導すると高らかにママタニは宣言した。肉を焼く煙の香を思い出しながら、その演説を聞いた。ピースボートのおかげで絶好のタイミングで現地取材できた。

そしてパナマ運河の風景にも心を

奪われた。20世紀の初頭に完成した運河だ。深い緑の密林の間を貫く水路がアメリカの国力と強い意志を反映しているようだった。この運河と兩岸の運河地帯をアメリカが保有していた。しかし、1970年代末にアメリカのジミー・カーター政権は、運河を同国に返還した。そのためにはアメリカ議会の同意を必要とした。カーター政権は、その説得に苦労した。ちょうどアメリカの大学で学んでいた筆者は、ワシントンで議会説得工作の担当者話を聞いたのを思い出した。そして今、トランプ大統領がパナマ運河はアメリカの物だとの発言をしている。パナマは、いつまでたってもアメリカ政治家にとっては、重要な関心事項だ。さまざまな記憶を頭の中に再生させながら運河の風景に見入った。

多くの識者が、アメリカの政治やトランプ政権を語る。だが、選挙前にニューヨークの新市長の地盤を視察したり、つい最近にパナマ運河を通過したりした国際政治学者は、この船に乗っていた人物だけではないか。すごいぞ世界一周クルーズ！



4回目の世界一周も たっぷり楽しめました

Voyage118に乘船された鍋田真弓さん。4回目という世界一周の旅は申し込み後に航路変更となりましたが、「変更されたプランのなかで楽しもう」と考え、世界一周の旅を堪能されました。寄港地の思い出などについて話を伺いました。

鍋田真弓さん



鍋田さんは4回目の世界一周になるVoyage118に、出発前どのような期待を抱いていましたか。

大好きなアフリカにまた行けること、そしてオーロラを見ることをとても楽しみにしていましたが、この2つについては大満足の旅となりました。ポートエリザベスの「サファリツアー」、最高でした。実は思ったより寒かったんですけど多くの野生動物と出会えました。ケープタウンではタウンシップランガ地区の交流ツアーに参加しました。これはかつての「黒人居住地」を訪ねるピースボートならではの貴重な機会になりました。オーロラは、もう期待以上でした。すごく長い時間、オーロラ観察ができましたが、神秘的な世界を体感した贅沢な体験でした。

出発前に航路変更の発表がありました。その点はどう受け止めたか。

何ごとも予定通りにいかないことはあるし、変更になったらなつたで、そのなかでどう楽しもうか考えたほうが良いと思いました。航路変更には

クルーズディレクターが イチ押しする ラテンアメリカの魅力



クルーズディレクター
田村美和子 TAMURA Miwako



Q Voyage123のクルーズディレクターという立場から、見逃せないところはどこですか。

私がぜひおすすめしたいのは、中南米やカリブ海の国々です。歴史あるヨーロッパとはまた違った魅力があり、何より「人の温かさ」が忘れられません。初めて会う旅人にも「ようこそ」と惜しみない笑顔に向けてくれる、そんなウエルカムな雰囲気になっています。

私自身サルサダンスが大好きで、スペイン語も学んでおり、友人も多くいます。スペイン語圏には「一度会えばアミーゴ（友人）」1時間過ぎればファミ

リア（家族）という気風があり、出会いをとて大切に文化が根づいています。家族や仲間を尊び、人とのつながりに喜びを見いだすその価値観は、昨今つながりが希薄になったと言われる現代人の心に温かい灯をともしてくれます。

Q 中南米やカリブ海の国々に行く前にやっておいた方がいいことはありますか？

洋上では、私が担当するサルサレッスンや、ラテンアメリカ音楽に触れられるイベントをたびたび開催します。現地で流れる音楽は、聴くだけで体が

自然と揺れてしまうような心躍るリズムですが、事前に簡単なステップを知っておくと、現地での楽しさが一層広がります。港に降り立った瞬間から、街の空気や音がより鮮やかに感じられることでしょう。

Q おすすめの
お土産はありますか？

パナマ、メキシコ、グアテマラでは、色鮮やかな小物や織物など、見ているだけで気持ち明るくなる「ビタミンカラー」の雑貨がたくさん並びます。日本ではなかなか出会えない大胆な色づかいが多く、お部屋のアクセントにもなりますので、旅の思い出としてぜひお持ち帰りください。

Q Voyage123に
乗船される皆様へメッセージを

先日、昨年のクルーズで一緒した方にお会いしました。そのクルーズも残念ながら航路変更となりましたが、その方は悩まれた末に、「少しでも早く、健康なうちに」と乗船され、新たに追加された寄港地も楽しまれていました。また、船内でまた始めた社交

よって加わった寄港地も素晴らしいかったですよ。たとえばカナリア諸島では一人で島内をバスで巡ったのですが、市場に行ったり本場のイベリコ豚を堪能したりして満喫しました。ポルト



については下調べせずに行きました。が、街並みがとても綺麗でした。リバプールはビートルズファンには堪りませんね。現地でギター片手にずっとビートルズナンバーを歌っている男性がいました。サモアのアピアでは自立を目指す女性たちと会うツアーに参加し、大歓迎を受けました。思い出話し出したらキリがありません。予定が変わっても素晴らしい旅であることに変わりはありません。

Q ポジティブな考え方、
素晴らしいですね。

以前、世界遺産検定マイスターであり水先案内人でもある片岡英夫さんに言われたことがあります。「世界周の旅には環境、金、健康、国際情勢、機会、気持ちの“6K”」



ダンスにすっかり魅了され、下船後は各地で開かれるダンスの会に出かけるほど熱中しているとのことでした。

「また会いたい人が日本国内をはじめ世界中にできて、毎日が楽しい。この旅が最高の宝物になった」とのお言葉は、私にとっても大きな励みとなっています。

世界一周の旅では、二期一会の感動が次々と訪れます。それが、後の人生をあざやかに彩る「エッセンス」になることも少なくありません。航路が変わっても、旅がもたらす豊かさは変わらず、むしろ予期せぬ瞬間が、かけがえのない思い出になることもあります。

皆さまの旅が最高の体験となるよう、今回もスタッフ一同、精一杯準備を進めております。さあ、私たちと一緒、新たな航路で最高の「乗ってよかった」を見つげに出航しましょう。春に皆さまとお会いできる日を、心より楽しみにしております。



Q そこまで鍋田さんを
惹き付けるものは何でしょうか。

が揃わないと出かけられないんだ。だから参加できるタイミングはとても貴重でフルに活用すべきこと」だと。すごく共感しました。だからまず乗船できることに感謝しましたね。実はこれで最後にするつもりでしたが、Voyage126にも予約を入れているんです(笑)。

寄港地も素晴らしいですが、船内の自主企画やイベントが魅力です。前回は航路変更で洋上が長くなったため、その機会がすごく多かったんですが、どれも参加し楽しめました。あとは船内の色々な方との出会い、これもピースボートならではのですね。